

平成30年度獣医学生福島体験研修

～研修を終えて～

福島県では、獣医大学の学生を対象に、東日本大震災と原子力災害からの復興に立ち向かっている福島県の姿と、家保業務への理解・関心を高めもらう事を目的に、福島体験研修を行っています。

平成30年度は、2月27日～3月1日の3日間に4大学から6名の学生を受け入れ実施しました。

御協力を頂きました関係者の皆様、ありがとうございました。

鳥インフルエンザ検査体験



疾病検査実習



ランチ風景



復興関連牧場視察



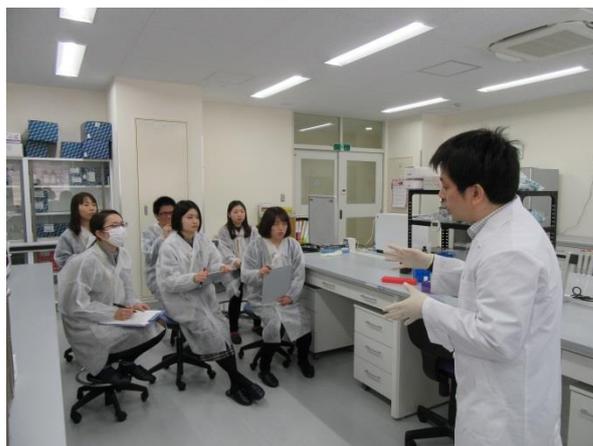
動物愛護センター視察



放射能についての学習



病性鑑定施設研修



集合写真



受講した研修生の感想

大橋 雅英さん 酪農学園大学4年生

福島県では家保の獣医師が震災後の放れ畜対応を行っていたことを、この研修を通して初めて知り、大変驚きました。このような非常時の対応にも獣医師が活躍していることに、また獣医師という役割の重要性和責任の重さを感じることができました。





新里 実子さん 酪農学園大学3年生

福島を訪れて、自分の目で見て、聞いて、たくさん
の事を感じ、多くの事が学べました。家保の職
員の方が、「家保は病気がでた時は忙しくなり、注
目されやすいが、防ぐことが大切で病気がでてい
ないを誇りに思っている」と言っていたことが印象
的でした。畜産の縁の下の力持ちのような仕事
なのだと思います。放射能に関しては不安をあおるような報道も多く、何も信じられな
かったですが、今回の研修で、多くの知識を得て、どのような課題があるかもわかりま
した。すべての事が新鮮で多くの事が学べ、将来、公務員獣医師として働きたいという
気持ちが強くなりました。

永田 彩華さん 麻布大学4年生

家保の業務は多岐に渡り、様々な家畜を相
手に大学で学んだ知識や技術を活かせる仕事
であると感じました。地域との距離が近いのも魅
力の一つだと感じました。

また、福島の方々が一丸となって復興へ向けて
尽力なさっている姿やお話を伺い、今の福島を作
り上げているのは、まさに県民の方々一人一人なの
だと心にとても響きました。家保の業務だけでなく、
震災を経て復興に向けて進む福島の姿も知ることが出来、人間の強さのようなものを感
じ、私も少しでも福島の力になりたいと強く思いました。



藤江 香菜子さん 日本大学2年生

福島に住む親戚の家へ遊びにきた際に、震災の被
害に苦しんだり、悩んだりしている人の言葉を聞く機会
があった一方で、今回の研修では、復興に向けた前
向きな気持ちを強く感じられました。また、家保の業
務について詳しく知ることが出来、将来像をより具
体的に考えるにあたっての素材をたくさん得ることができ
公務員獣医師への憧れや大学での知識の習得への
意欲が強くなりました。

